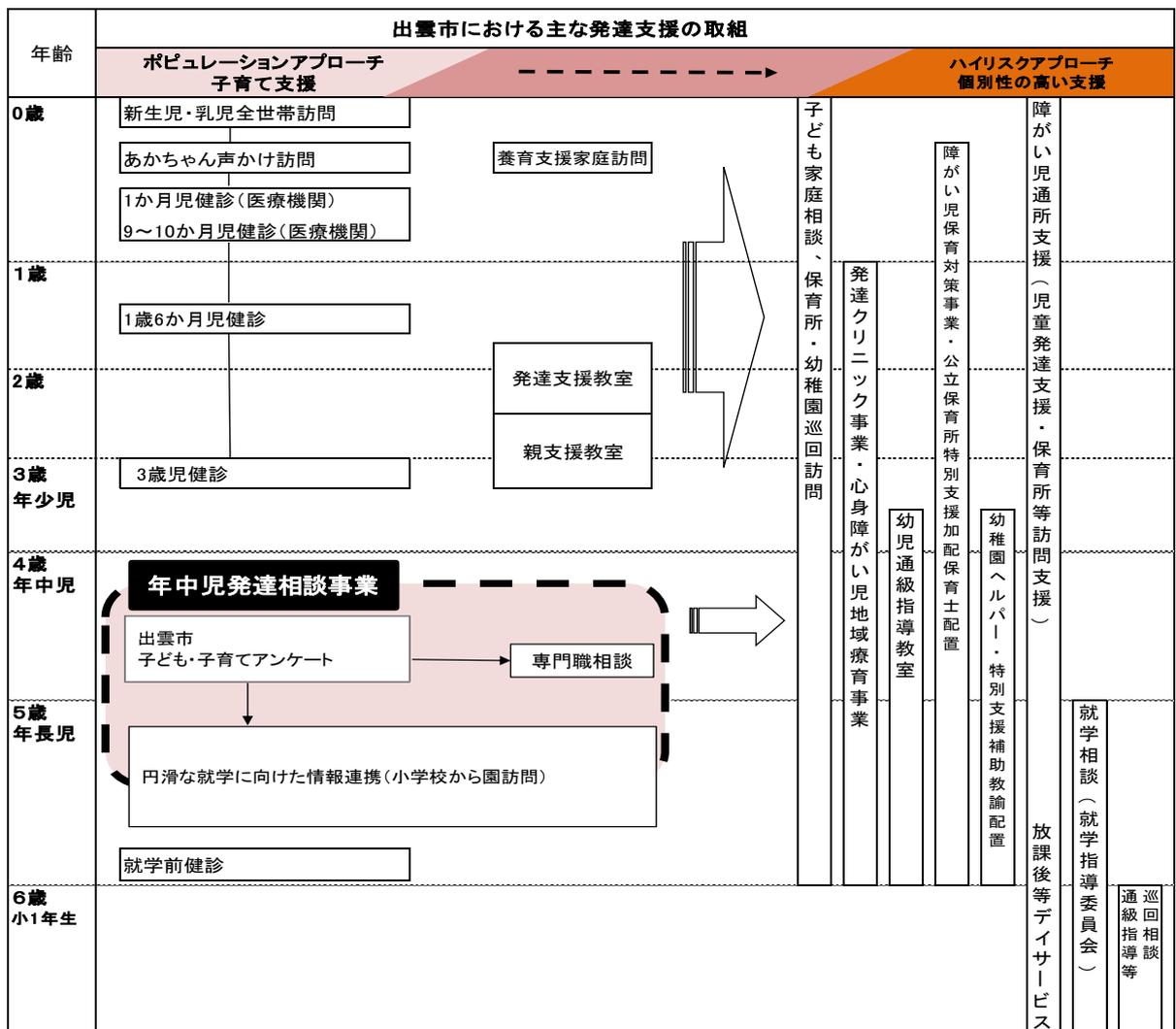


1 事業の趣旨

発達の支援を必要とする子どもに早期に気づき支えるとともに、子どもの円滑な就学を目的として、平成 28 年度に年中児発達相談事業と就学に向けた取組を全市で実施した。

2 事業の位置づけ

本市の発達支援の取組に、年中児発達相談事業を次のように位置づけて実施した。



3 事業内容

(1) 対象

幼稚園、保育所及び認定こども園(以下、「園」という。)に在籍する年度中に5歳になる子ども(以下、「年中児」という。)

(2) 実施体制

園、小学校、出雲市(以下、「市」という。)及び出雲市教育委員会(以下、「市教委」という。)が共同で実施した。

(3) 実施方法

子どもの生活状況や発達の様子、入学予定校等についての保護者アンケートを基に、園での保護者面談や市の専門職による個別相談を実施した。

また、円滑な就学に向けて子どもの理解を深めるために、園、小学校、市及び市教委がアンケートを共有し、相互の連携を図った。

4 アンケート実施状況

区分	実施状況 (単位：園)					アンケート提出状況 (単位：人)				
	対象園	実施	(%)	未実施	(%)	対象児	提出	(%)	未提出	(%)
幼稚園	27	27	100.0	0	0	445	444	99.8	1	0.2
保育所等	59	59	100.0	0	0	1,128	1,119	99.2	9	0.8
合計	86	86	100.0	0	0	1,573	1,563	99.4	10	0.6

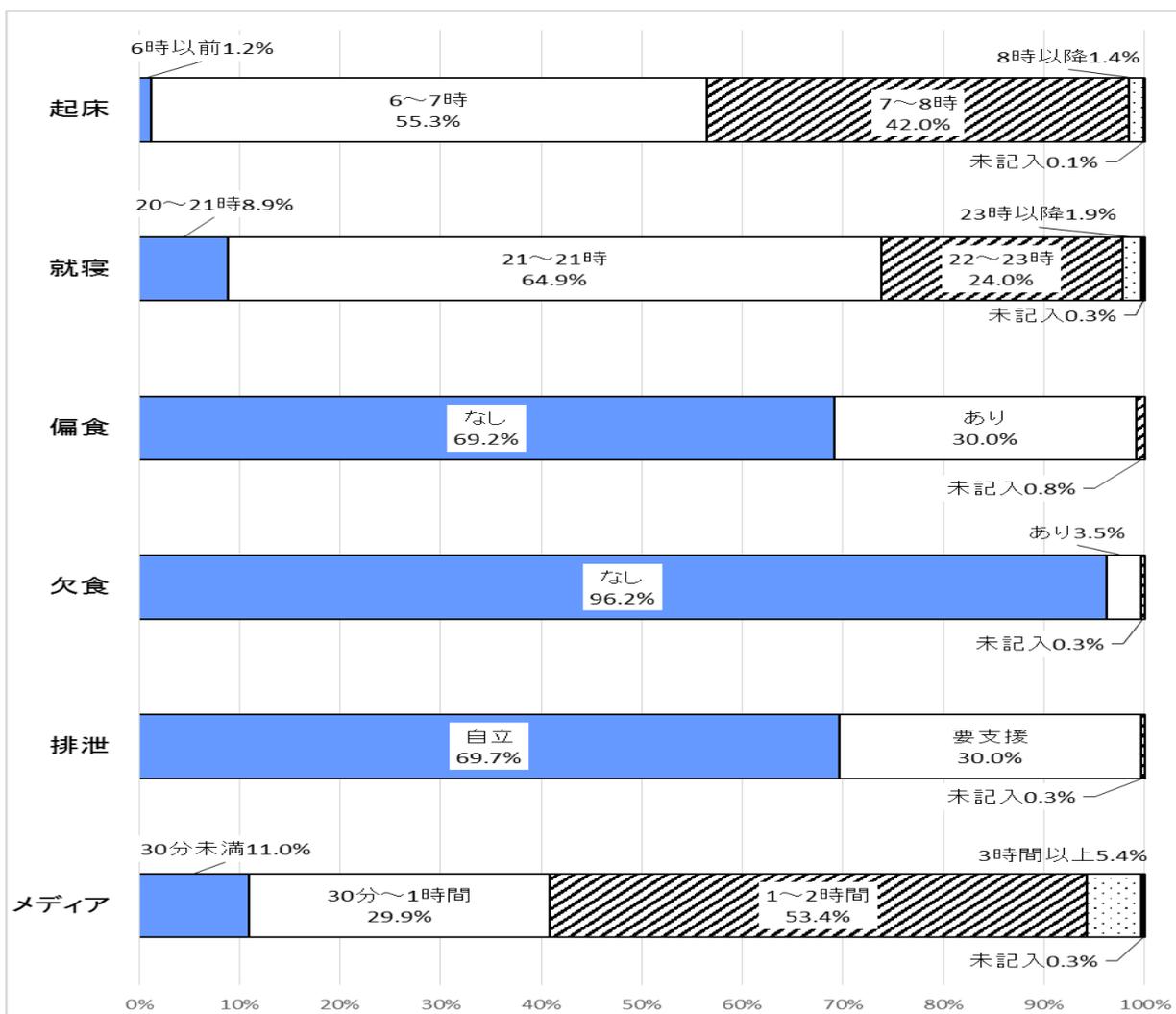
※保育所等とは、年中児が在籍する認可保育所、認定こども園及び認可外保育施設をいう。

※園の事業参加は希望制としていたが、全園が実施した。

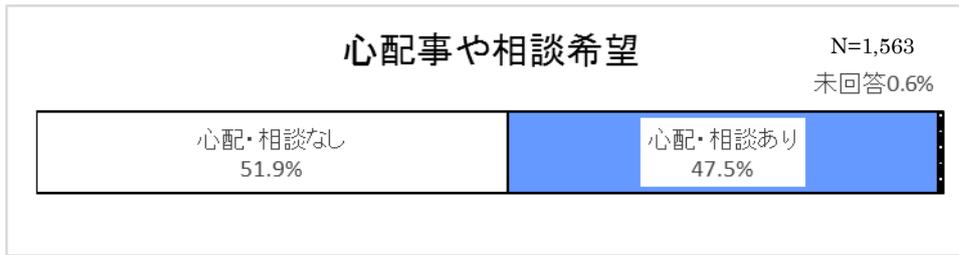
5 アンケート記載内容

(1) 生活習慣

N=1,563

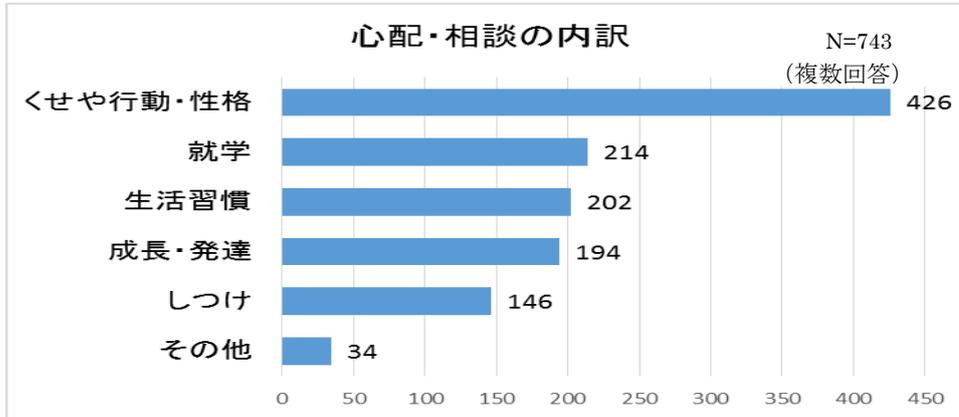


(2) 心配事や相談希望について

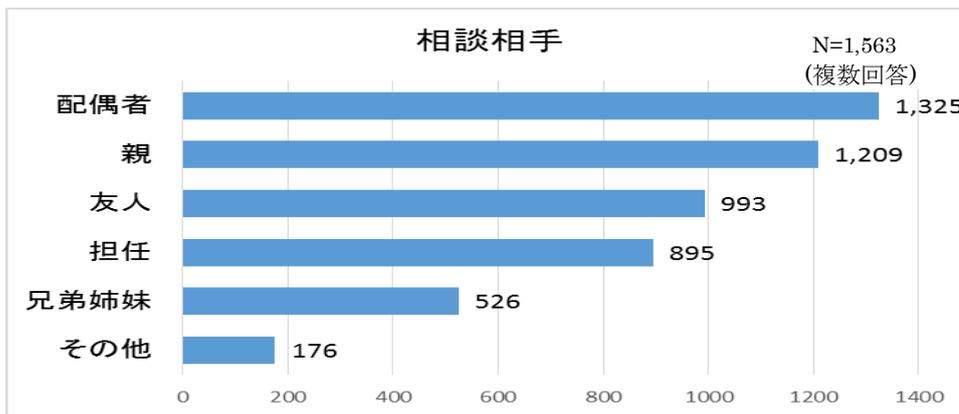


心配・相談状況

- ・なし 811人
- ・あり 743人
- ・未記入 9人



子どもの行動などについて、保護者の困り感が芽生えやすい時期であることが窺える結果となった。

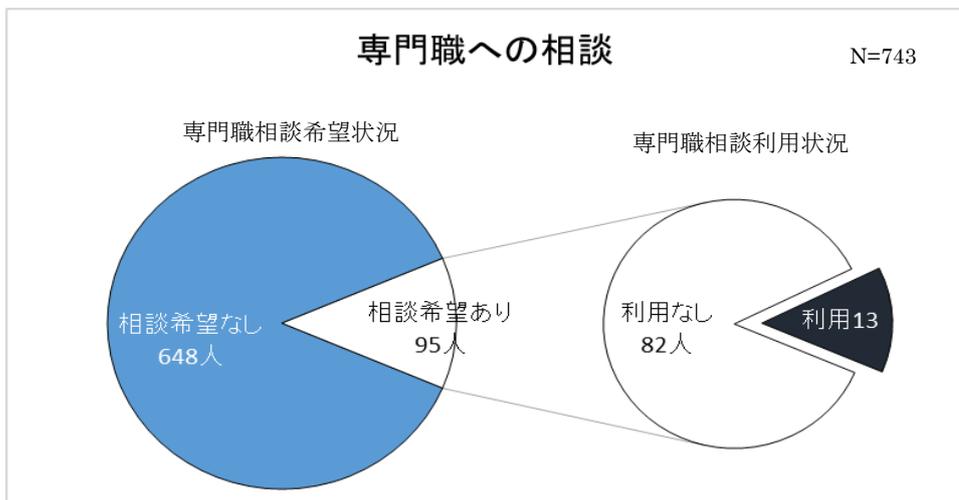


その他(176人)の相談相手の内訳

- ・医師 116人
- ・いない 8人
- ・未記入 7人
- ・その他 45人

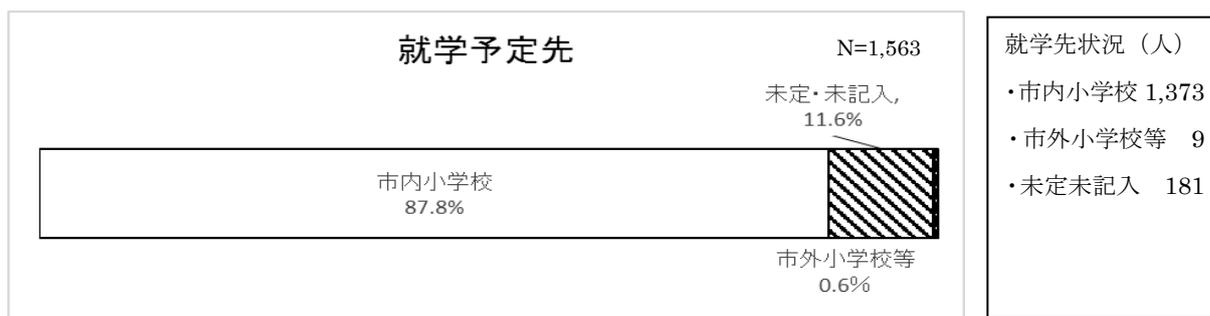
【保護者への相談対応】

- ・園では、全ての保護者にアンケートを活用した面談を実施した。
- ・市では、アンケート提出の1,563人分について、保健師や臨床心理士等の専門職による市内カンファレンスと、園との情報共有を実施した。
- ・市の専門職相談の希望者は95人、利用者は13人であった。



市の専門職相談を利用した13人は、医療機関や発達クリニックなどの専門機関などにつながった。

(3) 就学予定先



- ・就学予定先を市内小学校とした1,373人について、小学校と園が連携を図り子どもの様子を共有した。
- ・就学先未定・未記入の181人については、年長時期の情報共有を予定している。

6 事業評価

保護者、園、小学校、市及び市教委の主な事業評価は、次のとおりであった。

- ・保護者 子どもの成長や発達、子育て等を振り返る機会になった。
- ・園 子どもや保護者への理解が深まった。
- ・小学校 入学予定児の状況と入学予定者数の把握が早期にできた。
- ・市 全市的な取組によって、保護者への平等な相談機会の提供ができた。
- ・市教委 小学校と園の連携にはつながったが、手順等の改善が必要である。

7 事業検証

(1) 事業検証

園、小学校、市及び市教委が各々に事業を検証し、代表意見を取りまとめた上で、代表者が集う合同の事業検証会を実施した。

(2) 出雲医師会との意見交換会

出雲医師会の医師と、園、小学校、市及び市教委による意見交換会を実施し、本事業への評価と助言を受けた。

8 平成29年度の取組

平成29年度は前年度の取組を継承しつつ、本市の社会資源を活かした出雲市方式の事業としての定着を図るため、次の点を改善して実施している。

(1) アンケートの名称変更

子どもの育ちを支えるという事業の意図を明確にするために、平成28年度のアンケートの名称「出雲市 子ども・子育てアンケート」を、平成29年度は「出雲市 年中児 そだちの応援シート」へ変更した。

(2) 子どもの情報を小学校へつなぐ仕組みと位置づけ

平成29年度は、年中児の情報を小学校へつなぐ取組を、市教委の「出雲市保幼小連携推進事業」として位置づけて実施している。

また、園や小学校の負担軽減を図るための手順の改善に取り組んでいる。